

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

愛知県小牧市

2022年9月

**SDGs未来都市計画名**

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

小牧市SDGs未来都市計画

～子どもたちの夢への挑戦を応援し、未来につながるまち～

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

小牧市SDGs未来都市計画～子どもたちの夢への挑戦を応援し、未来につながるまち～

## (2) 2030年のあるべき姿

1. 経済（1-1. 若年世代から支持される魅力あふれるまち、1-2. 経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまち）
2. 社会（2-1. 子どもを中心にすべての世代がつながるまち、2-2. すべての市民が共生するまち、2-3. 健康と支え合いが循環するまち）
3. 環境（3-1. 循環型社会による環境にやさしいまち）
4. その他（4-1. 新型コロナウイルス感染症を糧に新たな脅威にも対応できるまち）

## (3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済			社会		環境

## (4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	従業者数（製造業、卸売・小売業）【8.3 8.5 8.8 9.2 10.2】	2016年 51,353人	- 人	2030年 53,093人	-
2	合計特殊出生率【3.7 3.8 4.1 4.2 4.3 4.a】	2018年 1.35	2020年 1.23	2030年 1.80	-27%
3	市内温室効果ガス排出量【7.2 7.a】	2017年 2,165千t-CO <sub>2</sub>	2019年 1,968千t-CO <sub>2</sub>	2030年 1,805千t-CO <sub>2</sub>	55%
4	協働による事業実施数	2020年 52事業	2021年 59事業	2030年 100事業	15%

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【経済】従業者数は「経済センサス活動調査」の結果を用いているため最新値は2023年6月に公表予定である。【社会】合計特殊出生率が減少した理由としては分母となる女性の減少幅に対し、分子となる子どもの出生数の減少幅のほうが大きく減少した。【環境】2021年6月に「ゼロカーボンシティ」を表明し、地方創生に関する包括協定を締結した企業等と連携し内外向け、各種啓発やセミナー等を行っている。【その他】本市では「経済」「社会」「環境」のほかに軸である「目標17. パートナーシップで目標を達成しよう」を主軸として「4.その他 4-1. 新型コロナウイルス感染症を糧に新たな脅威にも対応できるまち」を目指している。そのためには有効な公共サービスの提供や公的、官民、市民社会のパートナーシップの推進を進めており、先述した地方創生に関する包括協定締結企業のみにとどまらず、市民活動団体や企業、学校等との協働事業は順調に増加しており、「目標17. パートナーシップで目標を達成しよう」を推進することができた。今後は子育て施策に関して、生まれる前から生まれた後のケア及び子育て世帯の環境整備など包括的な支援施策を官民連携等活用しながら充実を図っていく。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	中心市街地のにぎわい創出（【2030年のあるべき姿1-1】に向けた取組）	中心市街地に立地している施設の来館者数	2021年6月 - 万人	2021年 86.8 万人			2023年 75 万人	116%
2	持続して発展を続ける産業・経済の確立（【2030年のあるべき姿1-2】に向けた取組）	支援活動により生産性が向上した企業数	2020年 3 件	2021年 8 件			2023年 20 件	29%
3	こどもたちの夢への挑戦を応援する体制の構築（【2030年のあるべき姿2-1】に向けた取組）	将来の夢や目標を持っているこどもの割合	2020年 81.6 %	2021年 78.5 %			2023年 85.1 %	-89%
4	ダイバーシティの形成（【2030年のあるべき姿2-2】に向けた取組）	交流事業の参加者数	2020年 2,130 人	2021年 1,190 人			2023年 2,500 人	-254%
5	健康と支え合いの地域内循環の構築（【2030年のあるべき姿2-3】に向けた取組）	生きがいを持って暮らしている65歳以上の割合	2020年 76.6 %	2021年 79.5 %			2023年 82.9 %	46%
6	ゼロカーボンシティの実現（【2030年のあるべき姿3-1】に向けた取組）	再資源化率	2020年 37.0 %	2021年 36.6 %			2023年 37.8 %	-50%
7	新型コロナウイルス感染症への対応と「新たな日常」の実現（【2030年のあるべき姿4-1】に向けた取組）	組織横断的なプロジェクトチームの設置数	2020年 4	2021年 5			2023年 7	33%

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

2022年1月に市内の唯一の中間支援組織である（特非）こまき市民活動ネットワークが主催し、小牧市、小牧商工会議所が後援をした『こまきSDGs宣言制度』が開始した。その周知啓発等と共に取り組んだ。また小牧市内のSDGsを包括的に推進し、宣言制度のステップアップとして登録制度を構築するにあたり、小牧市、小牧商工会議所、（一社）小牧青年会議所、東春信用金庫、（特非）こまき市民活動ネットワーク、東京海上日動火災保険(株)と『SDGsの推進に関する包括連携協定』の締結に向け調整を行った（参考：令和4年6月協定締結）。

また庁内のSDGsを推進するために市長を本部長とした全庁横断的な「小牧市SDGs推進本部」を2021年11月に設置し、全庁的なSDGsの推進体制を構築した。また下部組織として「こまきこども未来大学推進プロジェクトチーム」を2022年3月に設置した。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

中心市街地のにぎわい創出に関しては駅前の中心市街地に居心地の良いサードプレイスとなるような中央図書館やこまきこども未来館、こまき市民交流テラスなど多様な人材が訪れ、滞在し、交流できる場を整備したことで想定以上の来訪者数を達成できた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で学校の活動や、交流事業などは制限が加えられたり開催が難しいなど、「将来の夢や目標を持っているこどもの割合」などの達成度に影響がでた。今後は、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた取組手法の検討や必要に応じてKPIの設定などを検討する必要がある。再資源化率については横ばいながらも、愛知県内リサイクル率1位を5年連続で達成しているため今後も施策を推進していく。

また「こまきこども未来大学」については、令和4年度の事業実施に向けた準備として、こどもたちがSDGsを学び、夢への挑戦のきっかけづくりとなるような講座を提供いただける企業や市民団体が集まり、どのような講座ができるか話し合うためのキックオフミーティングを2回開催した。1回目は令和3年11月29日に開催し32団体41名、2回目は令和4年1月21日に開催し24団体30名が参加した。2回目は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、オンラインと対面のハイブリットで開催した。同時に講座の内容に関し、若者の意見を聞く場として、「こまきユースミーティングforこまきこども未来大学」を1回開催した。キックオフミーティングを通じて市内の企業がつながり合同講座企画が生まれるなどキックオフミーティングをきっかけに波及効果を見せている。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・こどもをタイトルに組み込んだ取組姿勢は評価できる。この姿勢を取組の指標として、一層具体化することを期待する。
- ・短期的には成果は明らかではないが、こども等へのサードプレイス提供の試み、こども未来大学や子育て支援の検討等は重要な取組として評価できる。